

山と博物館

「山と博物館」は自治会などを通じ全戸配布されるほか、市役所および関連施設で配置配布しています。また博物館公式 Web からご覧いただけます。

2026
秋号
第71巻 第3号

無料
Free

表紙の1枚 1
・播隆の槍ヶ岳開山にかかわる古道・飛州新道
さんばく研究最前線 2・3
・大町の地震と大森房吉
展示・イベントのご案内 4
博物館のひろば 5~7

お知らせ／付属園だより／山博友の会だより 8
・ライチョウの人工採精・人工授精
・夏の自然観察会
「五龍岳 遠見尾根
—高山植物・カクネ里氷河を見る—」



冷沢から鍋冠山へ至る登山道
(安曇野市・松本市)

播隆の槍ヶ岳開山にかかわる古道・飛州新道

関 悟志

江戸時代後期の念仏行者・播隆は、槍ヶ岳での登拝修行を文政9年(1826)から天保6年(1835)まで計5回実践したと伝わります。

播隆自身は、「開山」という言葉を使わず「開闢」(天地の開き初め。宗教的な開山の意)と記し、その目的を達成したのは天保5年(1834)の4回目の槍ヶ岳登山のときでした。その際、山頂を平らに広げ、先に安置した三体の仏像に、新たに仏像一体を加えて四尊とし、これをもって「槍ヶ岳寿命神」として、神仏が一体化した槍ヶ岳での独自の登拝信仰を形成しました。このとき、後に続く講による登拝者のために、槍の穂先と呼ばれる山頂付近の岩場に藁縄と木製の鈎で作った「善の綱」(善所へ導く綱の意)も掛けられます。この綱は、後に信徒らによって鉄鎖に掛け替えられます。

こうした播隆による槍ヶ岳登山で一行が通ったのが、

「飛州新道」などと呼ばれる北アルプス南部の山中を抜ける道でした。この道は、信州(信濃国)と飛州(飛騨国)を結ぶ古道を改善し、交易の道として江戸時代後期に開削が進められたもので、播隆らは槍ヶ岳への通い道として、新道の一部を利用して槍沢へと至りました。

当館では、今年の7月28・29日に、この道の一部を含む鍋冠山・蝶ヶ岳方面への現地調査を行いました。シラビソやコメツガなどの針葉樹からなる原生林の森を歩き、牛首(つめた沢掘り割付近)の播隆小屋掛け跡、大平(富士見横手分岐付近)の牛小屋跡、大久保(八丁ダルミ付近)、鎗ヶ嶽(槍ヶ岳)道・上口(上高地)道の分岐、手水ヶ嶽(大滝山)など、消滅地名を含め、播隆が歩いた当時の古地名の場所付近をたどりました。

今年は播隆の槍ヶ岳初登山から200年というひとつの節目を迎えます。(市立大町山岳博物館 学芸員)

- ◆市立大町山岳博物館は付属園を含め、月曜日と祝日の翌日が休館です。ただし、月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館となります。このほか、年末年始は休館となります。
- ◆開館時間は次の通りです。4~11月：午前9時~博物館：午後5時(入館は午後4時30分まで)・付属園：午後4時30分(入園は午後4時まで)、12~3月：午前10時~博物館・付属園：午後4時(入館・入園は午後3時30分まで)。
- ◆毎月第3日曜日の「家庭の日」とその前日の土曜日は、「大町市民無料開放デー(長野県民割引)」として、大町市民の方は観覧料が無料です。また、この日は長野県民の方も団体割引料金で観覧いただけます。今季の該当日は、10月17・18日、11月14・15日、12月19・20日です。この機会にぜひご来館ください。
- ◆次の方は通年、いつでも博物館を無料で観覧いただけます。《障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名/未就学児/大町市内小・中学校に通う児童・生徒/大町市在住の高校生/大町市在住の65歳以上の方》このほかにも観覧料の各種割引があります。詳しくは受付窓口でお尋ねください。



博物館施設案内
はこちら

大町の地震と大森房吉

竹村 健一

1. 2025年と2026年の大町の地震

本年(2026年)4月18日に大町市内を震源とする地震が発生しました。強い揺れは、13時20分ごろと14時54分ごろの2回発生し、1回目がM5.0、最大震度5強(大町市ほか)、2回目がM5.1、最大震度5弱(大町市ほか)を記録しました。なんと、ちょうど1年前の2025年4月18日にもM5.1、最大震度5弱の地震が発生しています。大町市在住の方は、偶然とも思えないこの日の発生に不安を抱かれた方が多かったのではないのでしょうか。どちらの年も人的被害はありませんでしたが、屋根瓦が落下したり、外壁が崩れたり、お墓が転倒するなどの被害があちこちで見られました。昨年の地震では、八坂地区の覚音寺の重要文化財の仏像1体が倒れて破損し、大きく報道されました。昨年及び今年の地震について被害状況の概査を行いましたので、ほんの一部ではありますが、簡単に報告します。また、大町近辺が震源となった過去の地震についても紹介します。

2. 被害のようす(概査)

両年の地震の翌日に簡単な調査を行いましたので、その様子をご紹介します。下の図には、震央と調査地

点を示しました。調査場所は、両年とも八坂地区から美麻地区を通る県道497号美麻八坂線沿いルートです。手積みの石垣が崩れていたり、石碑や墓石などが倒れているのを何か所かで見かけました。今年の地震で特に被害が大きかった所は美麻の小藤集落でした。ここでは写真のように壁にひびが入っていたり、剥がれ落ちている民家もありましたが、墓石の転倒被害が数多く見られました。墓石は様々な方向に倒れていましたが、北西～北東方向へ倒れているものが多い印象でした。また、回転したり、



移動しているものもありました。回転角度は $8^{\circ} \sim 42^{\circ}$ で、回転方向は時計回りのものがほとんどでしたが、反時計回りのものもありました。移動しているものの方向は、ほぼ北へ数cm～25cmでした。また、回転と移動が組み合わさったものも何基もありました。一般的には倒れる方向は地震動の方向と関係が深いと言われていますが、墓石の形や大きさ、方向、その場所の地形にも関連すると考えられ、倒れた方向から地震動の方向を特定するのは詳細な検討が必要です。ただし、墓石の移動方向と回転方向については、慣性の法則により震動方向とは反対方向に物体の移動が起き、震動粒子が時計回りに回転している時には物体は反時計回りに回転するという研究もあります(澤田ほか1998)。なお、今回の地震について精密な調査や検討を当館では行っていないので、上記の結果から地震の特徴を述べることはできません。より正確な調査とデータの解析を行うことは、地震の特性を解明する上で重要であることを改めて認識いたしました。当館内でも大きな揺れ



地理院地図 / GSI Mapsを改変

を感じましたが、天井からほこりや部材のかけらの落下や机上の本やパソコンが倒れた程度で、幸い大きな被害はありませんでした。前ページの写真で本が倒れている方向は、ほぼ南です。

なお、調査ルート（県道497号）と並行するよう小谷-中山断層が通っていると言われているが、この断層が動いた形跡は見られませんでした。信州大学震動調査グループや気象庁の観測結果でも、この断層とは無関係であることが報告されています。また、糸魚川-静岡構造線や松本盆地西縁断層、神城断層との関わりについても様々な見解があるようです。

3. 過去（歴史時代）の地震

歴史時代において、大町市を含む長野県北部でも大きな地震があったとの記録が残っています。被害のようすがわかるものもあります。最も古い記録は、762年に美濃～信濃にかけてのM7の地震ですが、詳細は不明です。以降、841年（信濃）、1714年（信濃小谷地震）、1847年（善光寺地震）、1853年（信濃北部）、1858年（信濃大町地震）、1890年（長野県北部）、1918年（大正大町地震）、1986年（長野県北部）、2011年（長野県北部：栄村）、2014年（神城地震）などです。なお、古文書には残ってはいませんが、大町市三日町で掘削したトレンチから6～7世紀頃に起きたであろう地震によってできたと思われる逆断層も見つかっています。

4. 大正大町地震と大森房吉

歴史時代の地震のうち、1918（大正7）年11月11日の大町で起きた地震について紹介します。この地震は、1858年に大町で起きた地震と区別するために「大正大町地震」とも呼ばれています。強い地震が未明と夕方の2回立て続けに強い揺れがあり、「双子地震」とも言われています。地震学者で有名な大森房吉（1868-1923・右図）は地震直後に大町地域に調査に入り、余震の回数や詳細な被害状況を「大正七年信州大町地方激震調査報告」として記録を残しています。現地の警察官による分刻みの揺れの記録日誌や、住民への聞き取り調査からこの時の地震の特徴を分析しています。さらには陸軍測量部による水準点測量結果に基づき、大町地域の地盤が150mm以上上昇していると報告しています。また、東京や長野の測候所の微動計観測の生の記録も添付されており、大町地震を総括するような重要な記録集ともなっています。なお、震央は諸説ありますが、1回目は大町市東の縁（当博物館に近い場所と思われる）、2回目は大町市南西部寺海戸地区あたりと言われています（大森、1921・坪井、1922他）が、最近では両地震とも東山山中とされています（河内、2000他）。坪井（1922）には盆地南西部の寺海戸地区からN35E方向へ約1kmの断層（東側6cm沈

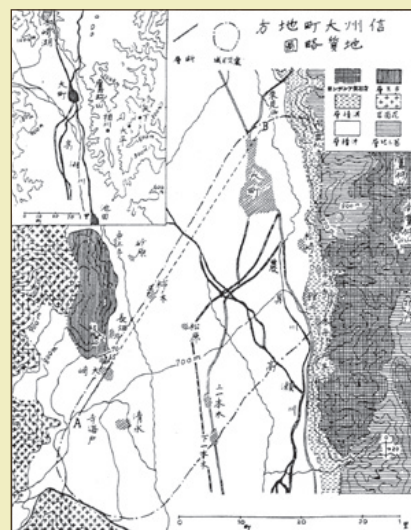


降）が描かれています（右上図）。また、河内（2000）によれば、大町盆地中心部に北東-南西方向に最大200mmの隆起帯ができていたことが導き出されています（右下図）。

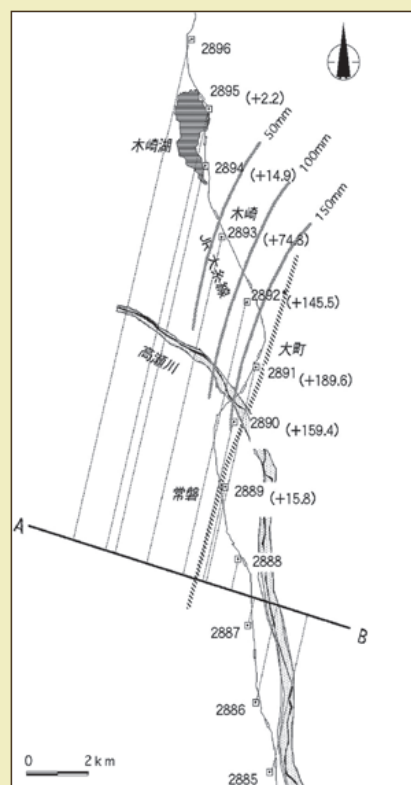
大森房吉は、「地震学の父」とも呼ばれ、世界にもその名がとどろいている偉大な地震学者です。高校地学の教科書でも「大森公式」という計算式が必ず載っています。この式は、観測点から震源までの距離Dを求める式で、小学校で学ぶ距離と時間と速さの関係に代入したごく簡単な式です。初期微動継続時間T（P波到着時間とS波到着時間の差）、P波とS波の速度から求めた値を係数k（通常6～8km/s）として、 $D=kT$ という簡単な式で表されています。地震波の記録から

Tがわかりますので、Dが簡単に算出できます。簡単な式ですが誰も気づかなかった画期的なアイデアだったのです。さらに、世界初の連続記録が可能な「大森式地震計」も開発しています。そのような偉大な成果を成し遂げた大森房吉が大町ともかかわりが深かったというのは大変興味深いのではないのでしょうか。

（市立大町山岳博物館 専門員）



坪井（1922）より引用



河内（2000）より引用

【参考文献】

- 河内一雄（2000）：1918年信州大町地震の断層運動—信濃川地震帯のテクトニクスⅡ—、地震、52、65-72。
- 大町市（2027）：大町市地域防災計画
- 大町市総務部消防防災課（2016）：大町市の揺れやすさマップ
- 大森房吉（1921）：大正七年信州大町地方激震調査報告、震災豫防調査報告、94、16-69。
- 澤田純男・土岐憲三・飛田哲男（1998）：墓石の回転挙動から推定される地震動特性、土木学論文集、598、I-44、387-298。
- 坪井誠太郎（1922）：信州大町地震調査概報、震災豫防調査報告、98、13-21。

展示・イベントのご案内

企画展

「ライチョウ野生復帰大作戦 ー令和6・7年度の取り組みー」

令和6・7年度に、環境省が実施した飼育ライチョウを中央アルプスに放鳥するまでの取り組みについて、当館での飼育や大学研究機関による研究を中心に紹介する企画展です。みどころは、夏号(第71巻第2号)をご参照ください。

■期間 令和8年9月19日(土)～12月20日(日)

■時間 9月～11月 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
12月から 午前10時～午後4時
(入館は午後3時30分まで)

■会場 当館 特別展示室

■費用 通常の観覧料(常設展と共通)が必要です。

特別展 関連催し

企画展記念講演会

環境省 信越自然環境事務所 生息地保護連携専門官 福田 真さんと、中部大学 環境生物化学科 准教授 土田 さやかさんを講師にお招きした講演会です。

■期日 令和8年10月10日(土)

■時間 午後1時～午後4時30分

■費用 参加費無料

■申し込み 要事前申込

■会場 サン・アルプス大町 大会議室

■申し込み方法

Eメール・FAX・電話、または直接当館へお申し込みください。申し込み時は、お名前・お住まいの地域・お電話番号をお知らせください。

企画展の申し込み・問い合わせ先

市立大町山岳博物館

電話：0261-22-0211

FAX：0261-21-2133

Eメール：sanpaku@city.omachi.nagano.jp

ミュージアムガイド&ライチョウ観察会

当館の学芸員による企画展の解説と、付属園のライチョウ観察会を行います。

■期日 令和8年10月11日(日)

12月 6日(日)

■時間 午前10時～・午後2時～

■申し込み 不要

■会場 当館 特別展示室と付属園

■費用 通常の観覧料(常設展と共通)が必要です。



付属園のライチョウ (2025年12月6日撮影)

野外活動講座

石ハカセをめざそう!

当館の専門員を講師に、石についてくわしく解説する野外講座です。

■主催 長野県山岳総合センター

■共催 市立大町山岳博物館

■期日 令和8年9月27日(日)

■申し込み 要事前申込

■問い合わせ 長野県山岳総合センター

電話：0261-22-2773

FAX：0261-22-5444

Eメール：info@sangakusogocenter.com



貴重な山岳資料をご寄贈いただきました

令和8年5月29日(金)



岡谷市在住の林正敏様【写真中央】から、国内の著名な岳人たち自筆の葉書や手紙といった書簡、ピッケルなどの貴重な山岳資料76点を当館へご寄贈いただきました。ご寄贈の際、林様に当館を薦めていただいた元岡谷市長の林新一郎様【写真左】も同席いただきました。

これら資料は、故・高山忠四郎氏旧蔵の品々で、日本野鳥の会諏訪支部名誉支部長である林氏が野鳥調査を通じて交流があった高山氏から譲り受けたもの。書簡は、日本山岳会信濃支部長を歴任した高山氏が、横有恒、串田孫一、藤木九三、田部重治、深田久弥、松方三郎、冠松次郎といった国内の著名な岳人らと交わしたものです。

なお、林新一郎様からは後日6月25日に木製スキー板1台の寄贈を受けました。

大北地域2校の高校生による見学がありました

令和8年6月18日(木)・19日(金)・23日(火)



6月18日と23日に白馬高等学校の普通科・国際観光科1年生、計51名の見学がありました。同校では「北アルプス学」という特色ある授業を展開しており、今回はその授業として来館いただき、当館学芸員が館内や付属園を案内して説明しました。

また、6月19日には大町岳陽高等学校1年生161名の見学がありました。7月実施の同校の学校行事「全校登山」に向けた予備登山として鷹狩山へ登る途中、毎年、普通科・学究科の全1年生に来館いただいています。全校登山は同校の前身のひとつ大町南高校(後に大町高校)当時の1948(昭和23)年から続く伝統行事です。

両校とも、当館の常設展を通じて北アルプスの自然と歴史を学んでいただきました。

大町北部小学校3年生の社会科連携授業を行いました

令和8年5月29日(金)



毎年、当館では市内の小学校を対象とした「学校との連携授業」を行っています。

この連携授業は、小学校の各学年における社会科・理科での単元授業として博物館にお越しいただき、それぞれの学習プログラムによって展示資料を実際に見ながら学芸員が解説することで、学校の教室で学んだことについて、博物館でより一層理解を深めていただくものです。

この日は大町北部小学校3年生の3クラス87名が当館を訪れ、3階展示室からガラス越しに見える市街地などを眺めながら、社会科の「土地利用」に関する学習を行うとともに、2階展示室で動物のはく製や付属園でライチョウなどを見学しました。

中学校の職業体験学習を受け入れ

令和8年6月18・19日(木・金)
7月15・16日(水・木)



山岳博物館では、学校教育におけるキャリア教育推進に協力しており、年間を通じて随時、市内や近隣市町村の中学生や高校生の職業体験学習の受け入れを行っています。今年は、これまで八坂小中学校と高瀬中学校の生徒のみなさんが実習を行いました。

各学校の実習では、基本的に1日目は博物館の仕事や施設の役割などを学び、標本作製や資料登録などを体験。2日目は付属園で動物の飼育を体験した後、受付業務を体験。

将来の進路の参考にさせていただくとともに、裏方の仕事を体験することで博物館をより身近に感じていただければ幸いです。

松本山雅サポーターによるボランティア活動

令和8年6月13日(土)



毎年、松本山雅公式キャラクター「ガンズくん」にちなんで、サポーターの皆様がライチョウ保護のボランティア活動を行っていただいています。昨年と同様に、今年もライチョウ舎周りの雑草や枝の除去にご協力いただきました。

13名のボランティアのご協力により、雑草が目立っていたライチョウの飼育舎周りがきれいに整備され、管理面の向上だけでなく、来園者にも気持ちよくライチョウをご覧いただける環境を整えることができました。6月は雑草がぐんぐんと伸びる時期で、職員だけでは整備が追いつかないこともあります。ボランティアの皆様のご協力に深く感謝いたします。

ライチョウ普及啓発推進プログラム勉強会に参加しました

令和8年6月26日(金)



日本動物園水族館協会では、今年度より環境省と連名で策定した「第3期ライチョウ生息域外保全実施計画」に沿って、ライチョウの普及啓発を推進することが決定しました。方針を固めていくために、6月26日に恩賜上野動物園で勉強会が開催され、各飼育園のライチョウの担当者が参加しました。当館も日本動物園水族館協会加盟館として参加し、今後新たに実施する取組などについて話し合いました。

今後もライチョウをより多くの人に知っていただき、域外保全の取組を応援していただけるように、関係者と連携しながら取り組んでまいります。

富山市ファミリーパークへ ライチョウを種卵移動しました

令和8年6月30日(火)



今年度は、ライチョウの繁殖技術開発の一環として、当館では初めてとなる、人工採精および人工授精を実施しました。この取り組みで得られた、当館で飼育しているメスが産卵した2卵を、富山市ファミリーパークに受け入れていただきました。

当日は、富山市ファミリーパークの職員2名に当館まで受け取りに来ていただき、大きな問題もなく、移動を完了することができました。その後、富山市ファミリーパークにおいて、当館から移動した卵から1羽が無事に孵化し、現在は他の雛とともに順調に育っているそうです。当館で人工授精の取り組みによって得られた卵が孵化したのは、今年が初めてになります。

各小学校「青木湖キャンプ学習」に講師派遣しました

令和8年7月10日(金)・13日(月)・14日(火)



青木湖キャンプ場内での学習では、青木湖やその周辺の自然や歴史について楽しみながら理解を深めていただくため、クイズ&ウォークラリー形式による学習プログラムを湖畔で実施しています。

自分たちが暮らす地域の自然環境や歴史文化について、現地での体験を通して、知って考えていただく機会となりました。



毎年、市内や近隣の小学校が実施する青木湖キャンプ学習に、各学校からの派遣依頼を受けて当館では出張講座として学芸員・専門員が出向いています。

今年も松川小学校(7月10日)、八坂小中学校(7月13日)、大町北部小学校(7月14日)からの依頼を受けて講師派遣を行いました。

特別展関連催し 「ギャラリートーク」

令和8年7月4日(土)



特別展「ボタニカル・フォトアートで見る雑草の機能美」関連催しとして、開催初日に作者であるいがりまさしさんご本人が、展示の見どころなどを解説する「ギャラリートーク」を開催しました。

午前・午後の1日2回行い、延べ39名にご参加いただきました。

展示室で作品をご覧いただきながらのトークは、2回ともおおむね30分間行っており、雑草と言う何気ない植物にフォーカスした作品を見ながら、作者の視点からの機能美について語られ、これまでにないアートの世界をご堪能いただけたものと思われます。

令和8年度第2回「文化財講座」 に講師派遣しました

令和8年7月11日(土)



大町市文化財センターが毎年、年間を通じて複数回開催している「文化財講座」において、当館学芸員が講師を務め、「大町市の近世の山伏と信仰」と題した講演を行いました。今回の講演は、同センターで収蔵する山伏関係資料を当館で調査させていただき、昨年度の『研究紀要』で報告したことから講師派遣の依頼がありました。

当日は、市内を中心に約15名にご参加いただきました。同センターのご配慮で、講演の最後には、山伏に関する実物資料も参加者にご覧いただき、講演を通して、北アルプス後立山連峰周辺の山岳信仰や大町市における近世の山伏の活動について、広く知っていただく良い機会となりました。

白馬高等学校からライチョウへ 高山植物を贈呈していただきました

令和8年7月21日(火)



白馬高等学校3年生の皆さんに、山岳博物館のライチョウへ高山植物を届けていただくという環境省主催のイベントが開催されました。令和6年よりライチョウに高山植物を提供していただいている白馬五竜高山植物園から採取したムカゴトラノオを、高校生13名が届けてくれました。イベントの最後には、届いた高山植物を展示しているライチョウに給餌しました。ライチョウは、初めて見る植物だったためか、恐る恐る近づいていきましたが、最終的にはついばむ様子も確認することができました。

イベントをとおして、ライチョウや高山植物への興味関心を深めていただくことができたのではないかと思います。

高山植物の生活史にかかる調査を実施しました

令和8年7月22日(土)～24日(月)



山岳博物館では、高山植物の生活史について観察を行っています。この度は、イワギキョウを対象に白馬岳で実施しました。

イワギキョウは雌雄異熟で、おしべが先に熟し、そのあとにめしべが熟します。同じキキョウ科のツリガネニンジンでは、この性の成熟が夕方から生じることがすでにわかっていて、花粉を媒介するガ類の行動に合わせて開花しているものと考えられています。一方、イワギキョウの花粉を媒介するのは昼間に活動するマルハナバチ類ですが、性の成熟が生じているのがいつなのかを3日間かけて観察してきました。

山岳博物館のライチョウ保護飼育活動への寄附金をいただきました

令和8年8月7日(金)



山岳博物館のライチョウ飼育事業のために、大町市内にある株式会社北アルプスブルワリー様より金十萬円の寄附金をいただきました。

当館では、ニホンライチョウの生息数の回復を図るために、環境省や日本動物園水族館協会と連携して、飼育研究を実施しております。当館では、今年から人工採精と人工授精の技術向上のための取り組みを行っています。

いただきました寄附金は飼育繁殖に関わる経費として有効に活用させていただきます。

安曇野市豊科図書館「山岳講座」に講師派遣しました

令和8年8月1日(土)



安曇野市豊科図書館が8月11日の祝日「山の日」に関連して毎年夏に開催している「山岳講座」では、当館職員が各分野による話題で講演を例年行わせていただいています。今年も依頼を受け、当館職員が出張講座として出向き、豊科交流学习センター「さぼう」で講演を行いました。

当日は安曇野市内を中心に33名の参加者があり、「高山植物の花の工夫—自家受粉を避けるさまざまな戦略—」と題した講演を通して、当館のこれまでの研究成果を中心に花と昆虫との関係などについてお話をさせていただき、新たな視点を紹介する良い機会となりました。

みんなで温暖化ウオッチ セミの抜け殻を探せ！ in大町

令和8年8月8日(土)



長野県環境保全研究所と共催で、地球温暖化が身近な自然にどのような影響を及ぼしているのかを知るためにセミの抜け殻を探し、その種類や数を調べるイベントを開催しました。本イベントは、平成25年より開始し、毎年同じ場所で開催することで、自然の変化を調べています。

7家族18名の参加者は、大町公園でセミの抜け殻を集めた後、当館講堂にて分類を行いました。抜け殻の大きさや触覚の違いなどを観察しながら分類した結果、8種179個の抜け殻が見つかりました。

イベントをとおして、生き物への関心を深めていただくことができたのではないかと思います。

令和8年度博物館実習の受け入れを行いました

令和8年8月6日(木)～11日(火・祝)



山岳博物館では、学芸員の資格取得を目指す大学生を対象として、博物館実習の受け入れを行っています。

本年度は6名の実習生を受け入れ、調査・研究、収集・保管、教育普及・展示を軸とした学習をとおして、博物館の仕事について学んでいただきました。また、お客様に対して実際に館内のガイドを行っていただき、幅広い層のお客様に対して解説をする難しさを実感していただくなど、有意義な6日間となりました。

来年度以降も実習の受け入れを予定しており、将来学芸員を目指す学生の支援を続けてまいります。

特別展開連催し「ワークショップ」

令和8年8月11日(火・祝(山の日))



特別展「ボタニカル・フォトアートで見る雑草の機能美」関連催しとして、会期中、いがりまさしさんを講師にお迎えし、小学生を対象としたワークショップ「ボタニカル・フォトアート スマホアプリで簡単作製術！」を開催しました。

当日は、いがりさんからアプリの操作方法の説明を受けた後、参加いただいた9名の子どもが作品を作製しました。呑み込みが早く、時間内に作品を仕上げることができました。それぞれの個性と感性が反映された作品はどれも芸術的で、できあがった作品が披露されるたびに保護者の方からは歓声があがっていました。

お知らせ ～『令和7年度 年報』を発行しました(令和8年7月25日 発行)～

このたび、昨年度の当館における活動をまとめた『令和7年度 年報』を発行しました。

毎年度発行している『年報』では、資料収集・保存管理事業、調査研究事業、教育普及事業を中心に、前年度における1年間の活動内容を記しています。『年報』は、今回発行分の令和7年度のほか、過去年度についても当館公式ウェブサイトでPDFファイルにて公開しています。ぜひ、ご高覧ください。

付属園だより ライチョウの人工採精・人工授精



ライチョウの人工採精および人工授精の取組は、上野動物園と横浜市繁殖センターで令和3年から開始されましたが、当館では今年度から初めてこの取組に参画しました。今年度は、5月末に他園から職員を派遣していただき、2

日間の研修を受けました。

今回の取組は、飼育個体を対象としていましたが、野生の雄から採精し、飼育の雌に精液を注入する方法を確立するための検証も兼ねて実施しました。そのため、実際の移動時間を想定し、採精した精液を5時間以上低温で保存した後、雌への注入を行いました。

人工採精では、ライチョウに対するマッサージの力加減や方法のコツをつかむことが難しく、個体に負担をかけないよう細心の注意を払いながら行いました。採精後には、顕微鏡で精子の量や状態を確認するなど、採取した精液の検査も行いました。

研修後も、当館職員だけで人工採精と人工授精に繰り返し取り組み、職員同士で情報を共有しながら経験を重ねました。しかし、採取した精液の中に精子を確認できないことも多く、採精の時期やマッサージの方法など、今後さらに見直していく必要があります。今年度の取組を通して、人工採精・人工授精について多くの経験を積むことができました。まだ技術的に課題はありますが、今後も練習を重ねながら、当館に適した採精の時期や方法を探っていききたいと思います。

ライチョウの域外保全に貢献できるよう、引き続き取り組んでまいります。

さん ぱく 山 博 友 の 会 だ よ り

当会またサークル4団体(ボランティアの会・烏帽子の会・花めぐり紀行・山岳文化研究会)の活動は、博物館公式HPでご覧いただけます。

夏の自然観察会

「五龍岳 遠見尾根

—高山植物・カクネ里氷河を見る—

友の会主催事業として7月5日(日)に実施した今回の催しでは19名の会員が参加し、山岳博物館から千葉副館長が講師として同行して植物の現地説明を行いました。

当日の朝は、白馬五竜スキー場からゴンドラとリフトを利用して地蔵の頭へ。曇り空で、お天気が心配でしたが、何とか雨に遭わずに小遠見山まで往復し、予定通りの行程を歩くことができました。昼食休憩と記念写真を撮影した小遠見山では、一瞬ではありましたが、雲間からカクネ里氷河を見ることができました。帰りは白馬五竜高山植物園を見学後、ゴンドラに乗り下りて下山。初夏の一日、五龍岳遠見尾根での自然観察会を楽しみました。



編集・発行



〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
市立大町山岳博物館 編集責任者 坂井征洋
TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:https://www.omachi-sanpaku.com

2026

秋 号

第71巻第3号

発行日 2026(令和8)年9月25日

印刷 有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL.0261-22-3030 FAX.0261-23-2010